



# 島根の地域医療

発行者

島根県健康福祉部

医療政策課医師確保対策室

## 今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 45 《西川正 理事長》
- ◆看護師さんのページ NO. 25 《岸本加智代さん》
- ◆研修医のページ NO. 28 《木村倫子 先生》
- ◆臨床研修病院の若手医師と語る会
- ◆しまね地域医療支援センター運営委員会
- ◆地域医療支援コーディネータの欄



地  
域  
医  
療  
最  
前  
線

NO. 45

## 社会医療法人清和会西川病院

理事長 西川 正



当院は浜田市にあり、私の父である故西川正勝により昭和8年に開設された島根県では最古の単科精神病院で、現在は

410床の規模で運営しています。平成21年1月には社会医療法人として認可されました。本年は病院設立60周年となりますが、この20年間「自由・開放・科学―三つの和音が響き渡る明日へ」を理念として、精神医療の地域医療モデルを目指して病院と社会復帰のシステム作りに取り組んできました（詳細はホームページをご参照下さい）。  
最初の飛躍の一步は、平成4年8月に完成したPICU（精神科集中治療ユニット）19床及び個室開放病棟70床による重症度に対応した機能分化です。PICUでは精神病の高度な不安恐怖体験を出来るだけ緩和しようとの試みで、個室開放病棟の各個室はホテ

ルのように内鍵付で、入院者のプライバシーが保たれ安心して休養できる療養環境となりました。内鍵付の個室は、治療者により外から鍵を掛けられる精神科医療常識の逆転の発想であり、同年9月には朝日新聞の全国版に報道され、また私が「分裂病ガイドブック―患者と家族のためのQ&A」を出版したことから、全国から様々な問い合わせや実際の入院、病院関係者の見学が相次ぐようになってきました。その後OT（作業療法）・デイケア棟の建設、地域支援センターと福祉ホーム建設、アウトリーチ機能を持つクリニック開設などを経て、昨年4月には障害者就業施設であるヴィレッジ本館の開設を行いました。本年4月には外来・管理棟を含め、全館のリニューアルが完成し、患者と職員共に満足度の高い治療・職場環境が整いました。

職員の労働条件に関しては年間休日127日に象徴されるごとく良好で、幸いにして看護師の求人では苦勞知らずで、人柄の良いスタッフに多く集まって貰い喜んでいきます。

医局に関しては、常勤医12名で多国籍軍であり、秋田大、福井大、鳥取大、島根大、産業医大、久留米大、熊本大卒者などで、出身地も福島県、神奈川県、大阪府、佐賀県など多岐に亘りま

すが、老若男女和気あいあいと診療に取り組んでいます。この7月には米国NIHで15年間最先端の脳研究に従事してきた広島大出身の医師も幹部として赴任予定です。

医師の初期研修は主には浜田医療センターの精神科研修施設としての役割を担っています。島根大学、鳥取大学からの研修も受け入れています。また、これまで2名の後期研修医が当院の常勤となっており、昨年には2名とも精神保健指定医の資格を取得しました。

「島根から世界へと発信する精神医療を目指す」当院の心意気に共鳴する若人よきたれ。



医局・常勤医 12名



大田市立病院

看護部長 岸本加智代

大田市立病院は、平成11年2月1日に国から移譲を受け新病院としてスタートし、大田医療圏の中核病院としての機能を果たしてきました。ところが、平成18年看護師不足による病棟閉床、平成22年医師不足による救急告示の取り下げと、厳しい医療情勢をまともに受け、経営状況も徐々に下降線を描くようになってきました。そんな時「みんなで何かできないか。無駄をなくしていこう」と、委託業者へ依頼していた掃除、シーツ交換などを自分たちでやり始めました。コスト的には微々たるものですがじつとしておれなかったのです。ちょうどその時期に7対1看護基準を取得し、1病棟が「個別性のある思いやりのある看護を」と、プライマリナーシングにも取り組み始めました。試行錯誤しながら患者と向き合ううちに、受け持ち看護師としての意識が高まり、看護の喜びを実感し病棟にも活気が戻ってきました。

新人看護師については、入職がこの2〜3年なかったのですが、看護師確保対策として設けていた修学資金貸与

者（8名）第1期生の採用を契機に、平成23年度に新人看護師臨床研修プログラム作成に取り組みしました。ローテーション

多重課題シミュレーションの役者勢ぞろい



です。

研修、入院患者体験、多重課題シミュレーション、リフレッシュ研修、他施設合同研修など年間を通してのプログラムを実践する中で、新人と在職看護師が相互に刺激しあい生き生きと笑顔で働いています。

当院の理念「和・誠意・奉仕」に込められている地域の皆様に安全な医療を提供する役割、また医療従事者は地域の皆様に守られていることを認識し、地域との連携を図ることが大切と考えています。看護の専門性を生かし、安心して在宅療養を送ることができるよう、また地域連携の一環として訪問看護事業に取り組んでいきます。公立病院が担う訪問看護の在り方、地域医

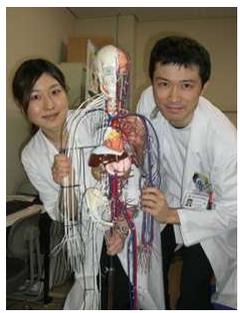
療福祉関係との協働等多くの課題をクリアしながら「地域に信頼される医療・思いやりのある看護」を目指し前に進んでいきたいと思います。



研修を終えて 一安心の笑顔…

研修医のページ

島根大学医学部附属病院  
1年次 医科研修医



木村倫子

早いものでもう初期研修1年目が終わり、2年目と

なりました。私は初期研修を島根大学2年間コースで行っています。慣れ親しんだ出身校に残るといふ強みから、1年目は色々な経験をさせて頂きました。大きなものとしてまず1つ目に東京医科歯科大学での救急研修がありま

す。私は4、5月という、まだ右も左もわからない状態で医科歯科ERにお世話になりました。基礎知識も、経験も全くない状態で日本有数のERに飛び込むのは、無謀に近いことで、こんがらがりながら、たたかれながら何とか毎日（実は楽しく）過ごしていました。とにかくその当時は目の前の救急患者様を診ることに一生懸命でした。もう少し何かができる状態になってから行きたかったなという気持ちもありますが、打たれ強さは確実に身についたと思います。また、その時指導して下さった2年目、3年目の先生方の頼もしさを見て、自分も1年後そうありたいというモチベーションを得ることができました。2年目となり、新しい研修医を迎えています。彼らに私はどう映るのでしょうか。私が頼った先輩方に負けないように、日々精進していきたいと改めて実感しています。

2つ目に2月中旬に行ったニュージーランドへの海外研修があります。島根大学では研修医も積極的に海外研修に行かせて頂いており、私の行ったニュージーランド他、メルボルン、ノースカロライナ、ウイスコンシン等、同僚達も各々の土地で様々なことを学び、共有しています。現地に訪れるまで私は、日本の、しかも大病院の診療形

態しか知らず、自分の志望科の勉強しか頭にありませんでした。しかし、海外での General Physics ianとしてのありかたを見学し、医師として幅広い知識を身に付けるようがんばらなければと、自己を見つめ直す機会となりました。

もちろん大学内での研修も毎日充実しています。自分のやる気があれば親切にサポートして下さる先生方がたくさんおられますし、キャリア形成支援の各部門もあります。これで自分の力にならなければ申し訳が立たないくらいです。患者様、お世話になった先生方、各スタッフの方への感謝を忘れずにこれからも成長して行きたいと思えます。

### 臨床研修病院の

### 若手医師と語る会

平成24年2月19日(日)に出雲市内において島根大学医学部主催の「マツチングシステム説明と島根大学医学部附属病院及び関連病院の先輩医師と語る会」が開かれました。この会は、島根大学医学部の学生に対して島根県

内で頑張っておられる研修医や若手指導医が県内の臨床研修病院の特徴や魅力等をPRし、今後の研修病院を選択するうえで参考としてもらうために、昨年に引き続き開催されました。

当日出雲市内はこの冬一番の寒気で積雪が20cmほどの悪天候となりましたが、参加した約40名の学生に対して、先生方から研修内容や生活環境などについて熱心に説明されました。また、島根大学医学部総合医育成講座の石橋教授

からは、総合医育成の取り組み等についての講演がありました。後半は立食形式の交流会も開催され、医学生と先生方とのさつくばらんなやり取りから、医学生にとって



なったようです。今後、一人でも多くの医学生がしまねを研修の地として選んでいただけるように、大学と連携を図りながらこのような取り組みを進めていきたいと思えます。

【医療政策課 奥原】

### しまね地域医療支援センター 運営委員会

平成24年3月14日(水)に第1回しまね地域医療支援センター運営委員会が開催されました。はじめに、センター長である小林島根大学医学部附属病院長より「このセンターでは、地域医療を志す若手医師のキャリア形成を支援する」との挨拶がありました。



その後、事務局から平成23年度の事業実績と平成24年度の取り組み方針について説明がありました。現在、センターが支援する島根大学医学部地域枠推薦や県の奨学金の貸与を受けた後期研修医は、島根県内で21名勤務され



ており、平成24年度は26名となり、その後も着実に増えていくこと、若手医師が将来に不安

をもつことなく県内で安心して勤務できるような支援体制の充実を図っていくこと、本人の目標や希望をベースに10年程度のキャリアプラン作成を支援することなどの説明がありました。委員からは、若手医師がキャリアアップを図るためには大学医局の協力が不可欠、また運営に対して研修医の意見を聞く場も必要などの意見がでました。今後、若手医師がしまねに軸足を置いてキャリアを積むことができるよう、大学や地域の医療機関、医師会、行政などと連携を図りながら取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願ひします。



【医療政策課 奥原】

地域医療支援コーディネータ養成コースは、島根大学大学院修士課程に開設され3年目となりました。このコースでは、地域で働く医師等の定着に関する課題についても研究を行っています。今回、県内への医師招へい件数が増加している背景を明らかにし、今後の医師招へいや定着支援に役立てることを目的にアンケート調査を行い、若干の検討を加えました。具体的には、島根県の「赤ひげバンク」制度による招へい医師がU・Iターンされる場合に重視された点や現在の職場や生活等の満足度を項目としました。

アンケート調査は、昨年10月島根県と島根大学地域医療教育学講座との共同で実施し、島根県の「赤ひげバンク」制度によりU・Iターンされた医師85名のうち、すでに退職した医師等を除く52名を調査対象とし、32名から回答（回収率62%）をいただきました。

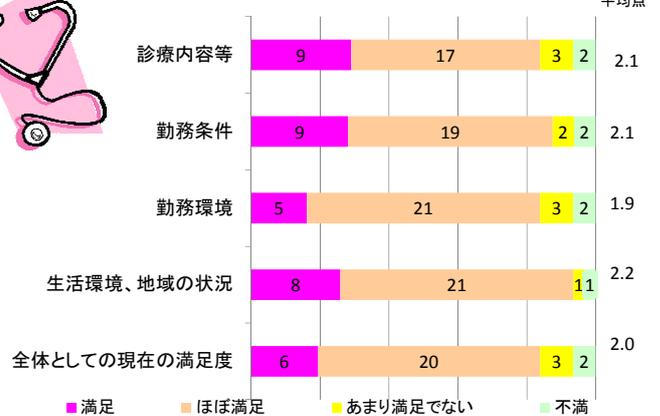
順位	U・Iターンにあたり重視した上位10項目
1	自分の力が生かせる
2	自分のやりたい医療ができる
3	行政(県・市町村)の熱意・対応
4	地域や病院が医師不足で困っており手伝いたい
5	病院の熱意・対応
6	職場の雰囲気(チームワークなど)
7	職場のサポート体制(医師の負担軽減策など)
8	行政などの理解と支援体制
9	地域医療(全人的に診る)をやりたい
10	収入

「赴任にあたり重視した項目」に関しては、診療内容や勤務条件、勤務環境、生活環境など37項目を提示し、それぞれ重視した度合いを4段階から選択してもらい、

点数化しました。その結果、上位10項目は右表のとおりでした。これによると、医師の多くは自分の持つ力を発揮してやりたい医療に取り組み、自己実現を図りたいという気持ちが高く、島根の地域医療がその選択肢のひとつとなっていることがわかります。医師不足の地域を助けたいという使命感も強く、行政や病院の理解と支援、働きやすい環境なども重要な要素であることが示唆されました。

次に、診療内容、勤務条件や環境、生活環境、地域の状況の全般について、「現在の満足度」を、満足から不満の

現在の満足度



4段階から選択してもらい、点数化しました。右図のとおり、概ね満足度が高いという結果でした。しかし、自由記載欄の中には「赴任後のフォローがない」などの意見もあり、行政、医療機関それぞれの課題も浮き彫りとなりました。

今後、回答されなかった医師やすでに退職された医師の考えや満足度を調査し検討することも必要であり、地域医療支援コーディネータとして、さらなる医師招へい・定着支援のための活動に役立てたいと思います。

**島根県で勤務していただける方を紹介してください**

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

**医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集**

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

**「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ**

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6683 FAX 0852-22-6040

E-Mail [iryuu@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryuu@pref.shimane.lg.jp)

ホームページ:

島根の医師確保対策

検索

